

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成22年度 第2回 川西市文化財審議委員会		
事 務 局 (担 当 課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開 催 日 時	平成23年3月28日(月) 13時30分～14時00分		
開 催 場 所	川西市役所 地下1階 B02会議室		
出 席 者	委 員	多淵委員長、中村委員、西岡委員、福永委員 計4名	
	そ の 他		
	事 務 局	益満教育長、牛尾教育振興部長、谷社会教育室長、岡野社会教育室主幹、山田主事 計5名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	1名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1. 報 告 (1) 加茂遺跡史跡追加指定 (2) その他 2. その他 市指定文化財候補物件現地視察		
会議結果	別紙のとおり		

審 議 経 過

事務局	<p>「ふるさと川西を愛する」教育の取り組みを行っているが、文化財の重要性の見直しができればと考えている。</p> <p>本日加茂遺跡の国史跡追加指定について報告するが、委員のご尽力で実現できたことを感謝したい。</p> <p>また、天然記念物の市指定候補の視察も予定しているので、よろしくお願ひしたい。</p>
委員長	<p>本日の報告事項として、加茂遺跡国史跡追加指定があがっている。阪神間では芦屋市会下山遺跡が同時に国史跡に指定されたことは、喜ばしい。</p> <p>同じ阪神間の重要遺跡ということで、両市合同の市民対象のイベント等の取り組みを提案したい。</p> <p>事務局から報告を。</p>
事務局	<p>昨年7月23日に文部科学大臣宛に追加指定の意見具申を行い、11月19日に文化庁文化審議会の答申を得ていたが、本年2月7日付け官報告示で正式に追加指定となった。</p> <p>追加指定地は、①加茂1丁目6番外の3, 686平方メートル、②南花屋敷2丁目247番1外の897.24平方メートル、③南花屋敷2丁目339番1外の654平方メートルとなっている。合計面積は5,237.24平方メートルである。追加指定地は、斜面環濠や環濠入口通路遺構等が検出された箇所、いずれも重要な地点にあたる。土地の所有者は、①・②は川西市土地開発公社で、③は民有地である。</p> <p>これにより、加茂遺跡の国史跡指定地は、平成12年の当初指定地23,247.21平方メートルと合わせて2,8484.45平方メートルとなった。</p> <p>なお、平成23年度の予算では、追加指定地①の崖斜面崩落防止工事のための地質調査及び工事設計を予定している。追加指定地③は、道路部分の買い上げを予定している。また、加茂遺跡保存活用構想検討委員会の開催も予定している。</p>
委員長	<p>ただいまの報告で、各委員の意見をお願ひしたい。</p>
A委員	<p>斜面環濠や環濠入口の地点の追加指定について市で尽力いただき、委員として感謝したい。</p> <p>委員長の話にもあったが、芦屋市会下山遺跡が国史跡指定となった。会下山は山頂の見晴らしのよい地点の弥生時代の戦乱のなかでの遺跡である。加茂遺跡は、高台の上の面積の</p>

<p>委員長</p>	<p>広い拠点集落で、それぞれ性格の違う弥生時代の遺跡が同じ西摂地域で国史跡指定となったことは画期的である。また、同じ官報告示には、高槻市の安満遺跡の追加指定も掲載されている。同じ摂津地域で弥生時代の3遺跡が指定・追加指定となったことは大変重要なことである。</p> <p>芦屋市との連携事業はぜひ進めていただきたい。</p> <p>加茂遺跡は、全体からすればまだ未指定地が多く残っている。徐々にではあるが市が公有化しているが、将来的には国がまとめて買い上げをしていただければと願っている。</p> <p>地図を見ると環濠の跡が現在の宅地区画まで反映していることは興味深い。</p> <p>非常に大事な遺跡であるといことを市民に啓発していただきたい。</p>
<p>A委員</p>	<p>先ほど事務局より加茂遺跡の保存構想検討委員会の立ち上げ予定の報告があった。大変素晴らしいことなので、積極的に進めていただきたい。これに関して、委員長の言われたようにまだ全面の指定には至っていないが、ある程度の指定は進んでいるので、この遺跡を通じて市民に地域をよく知っていただき、愛着をもっていただくような事業を積極的に展開していただきたい。場合によっては、体験発掘ができるような取り組みもよいのではないか。</p> <p>平成23年度から、文化庁では国の新成長枠のなかでかなり大きな補助金を地域の活性化と観光・文化財を絡めて80億円くらいの補助事業を創設している。震災の影響も懸念されるが、今年度は無理にしても来年度以降積極的に活用してはどうか。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局よりその他の報告を。</p>
<p>事務局</p>	<p>平成23年度は、明治24年の土取りで損壊している勝福寺古墳の墳丘の復元工事を予定している。</p>
<p>委員長</p>	<p>いつ頃実施か。</p>
<p>事務局</p>	<p>これから、土木担当の部局とも調整するので、秋くらいの実施の予定である。ただし、完全な古墳復元ではなく、とにかく取り去られた墳丘の土を元の状態に戻そうとするものである。その他見学通路の整備、看板の設置、枯れた樹木の除去等を予定している。</p>
<p>委員長</p>	<p>墳丘復元には、発掘調査は伴うのか。</p>

事務局	<p>発掘調査は、平成13年度から16年度にかけて福永委員の大阪大学考古学研究室との合同調査を行っており、地中の状態は明らかになっているので、今回調査は予定していない。横穴式石室の裏側の石材が露出しているので、とにかくそれを覆うのが今回の工事の目的である。</p>
A委員	<p>6世紀初頃の横穴式石室が大変よい状態で残っているが、石室だけでも国史跡級である。残念ながら石室裏側の土が失われており、今回墳丘復元が行われることはよいことである</p> <p>最近4年間、宝塚市長尾山古墳の調査を行っているが、昨年粘土槨が検出された。現在は宝塚市域であるが、川西市の勝福寺古墳と同じ丘陵の古墳である。文化庁の調査官にもこれらの古墳をつなぐような国史跡指定も検討していただきたいと伝えている。</p> <p>勝福寺古墳の周辺整備は重要なので、今後継続的に進めていただきたい。</p>
委員長	<p>複数の古墳を一括で指定できれば、よいことである。 これにて、委員会を終了する。</p>
事務局	<p>このあと、市指定文化財候補の現地視察をお願いしたい。</p>